



しろの 議会だより

2022年

NO. 69

令和4年8月1日発行

青森県七戸町議会

広報編集特別委員会



水道の施設楽しく学んだよ！ 天間林小学校4年生 38名

6月17日、天間林小学校（二本柳 淑実 校長）の4年生が社会科授業の一環として、天間林第一浄水場と天間林浄化センターの見学に訪れました。浄水場では、上下水道課の職員から施設概要や、浄水場の水が飲料水としてきれいになっていく仕組みの説明を聞き、行程に沿って浄水設備や消毒設備などの見学をしました。児童は、「きれいな水ができる時間は」、「1日に作ることのできる水の量は」、「水を大切にするために自分たちができることは」など、積極的な質問をしていました。

6 月 定 例 会

定例会の主な審議内容	2～3
「教えて！にんに君」	3
「一般質問！その後」	4
一般質問に5人登壇	5～11
委員会の動き	12

6月 定例会

主な審議内容

議案

令和4年第2回定例会は6月1日に開会し、白石洋議会運営委員長の報告のとおり、会期を7日までの7日間と決定しました。1日は、町長の提案理由説明、2日は一般質問(5人)、最終日の7日は議案審議を行いました。

提出された議案は、本会議で審議され、全議案可決し閉会しました。

要の改正をするものです。

☆全会一致で可決

○介護保険条例の改正

新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少したこと等による影響を受けた第1号被保険者に対し、令和4年度における保険料の減免の特例が受けられるよう、所要の改正をするものです。

☆全会一致で可決

○物品購入契約の締結

(消防ポンプ自動車 C D I型購入)
消防ポンプ自動車の購入契約のため、議会の議決を求めるものです。

☆全会一致で可決

○物品購入契約の締結

(除雪トラック交換購入)
除雪トラック(7トン級)交換購入契約のため、議会の議決を求めるものです。

☆全会一致で可決

○令和4年度補正予算

(次項表参照)
☆全会一致で可決

報告

○専決処分事項の報告

- 自動車損傷事故に係る和解及び損害賠償の額を定めることについて

☆全会一致で承認

町税条例等の改正

☆全会一致で承認

補正予算

(第5号)

☆全会一致で承認

- 公共下水道事業特別会計補正予算

(第5号)

☆全会一致で承認

- 農業集落排水事業特別会計補正予算

(第5号)

☆全会一致で承認

- 水道事業会計補正予算

(第6号)

☆全会一致で承認

- 《令和4年度予算関係》

一般会計補正予算

(第1号)

☆全会一致で承認

- 水道事業会計補正予算

(第1号)

☆全会一致で承認

- 令和3年度七戸町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

令和3年度予算のうち令和4年度へ繰り越したものの(8事業)について報告するものです。

☆報告

定例会・臨時会での主な感染症対策

- ・ 会議室入出時の手指消毒、マスク着用
- ・ ドアや窓を開放しての会議室の換気
- ・ 傍聴者に感染症対策への協力を要請
- ・ 風邪症状がある場合の会議出席自粛



※但し、議長が許可する場合は、この限りではありません。

○令和3年度七戸町一般会計繰越明許費繰越計算書の報告

令和3年度予算のうち令和4年度へ繰り越したものの(3事業)について報告するものです。

☆報告

ことばのヒント！ 特別委員会って??

学生：「特別委員会」は「常任委員会」とどう違うのですか？

先生：常任委員会は、条例で設置が決められているが、特別委員会は、必要に応じて町議会の議決で設置を決めているもので、町政の特に重要な事項を審査などするために特別委員会があるのです。

学生：なるほど。七戸町には特別委員会はありますか？

先生：もちろん、4つの特別委員会があります。
・道路整備促進特別委員会
・議会改革特別委員会
・議会広報編集特別委員会
・荒熊内地区開発事業対策特別委員会

学生：4つもあるんですね。具体的な審査や検討内容ってどうなっているのですか？

先生：特別委員会は、設置するときに決められた審査・検討事項をじっくりと審査・検討していきます。特別委員会にも、常任委員会と同様に、検討事項に該当する担当課長が出席するので、自由・活発な議論が展開されます。

学生：議論だけで終わりにしてしまうのでは？

先生：いいえ、そんなことはないです。特別委員会でまとめられた意見などは、議会を経て、「提言」として、町長に提出され、町政の施策や運営にしっかり反映されています。

学生：Good jobですね！

○工事請負契約の締結
(蛇坂団地建築工事(第1工区))
蛇坂団地建築工事(第

追加議案

○付託案件の審査結果
「議員定数削減について、3月定例会までを期限として、議会改革特別委員会付託の上、審査されたい」件については、9月定例会までを期限として継続審査とする。

特別委員会報告

1工区) 契約のため、議会の議決を求めるものです。
☆全会一致で可決

○令和4年度一般会計補正予算(第3号)
755万6000円を追加し、総額を1億9億4394万3000円とするものです。
☆全会一致で可決

○工事請負契約の締結
(蛇坂団地建築工事(第2工区))
蛇坂団地建築工事(第2工区) 契約のため、議会の議決を求めるものです。
☆全会一致で可決

令和4年度 6月補正予算

区 分	補正額	予算総額	
一 般 会 計	1億0,883万9千円	119億3,638万7千円	
特 別 会 計	国 民 健 康 保 険	▲252万6千円	18億1,681万8千円
	後 期 高 齢 者 医 療	591万7千円	4億3,392万6千円
	介 護 保 険	426万3千円	27億4,414万3千円
	公 共 下 水 道 事 業	245万3千円	5億0,130万9千円
	農 業 集 落 排 水 事 業	410万0千円	8,035万1千円
水道事業会計	収益的収入	30万6千円	3億5,940万4千円
	収益的支出	294万9千円	3億1,006万8千円

一般会計補正予算(歳入の主なもの)

- ・国庫支出金
1,632万3千円(新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金)
1,520万0千円(住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金事業費補助金)
1,634万6千円(新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費補助金)

一般会計補正予算(歳出の主なもの)

- ・新型コロナウイルス感染症対策費
2,028万5千円(ワクチン接種業務委託料)
720万0千円(住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金)
- ・農業振興費
300万0千円(新規就農者育成総合対策事業費補助金(経営開始資金))
375万0千円(新規就農者育成総合対策事業費補助金(経営発展支援事業))

「教えて！ にんに君」コーナー

皆さん、こんにちは。議会についての？をにんに君が毎回わかりやすく解説していきます。

Vol.7 「読む！町議会」

皆さんが会議の様子を知るために、直接傍聴(本会議や特別委員会等)するほか、「会議録の閲覧」もできることは御存じですか？

会議録は作るのに少し時間がかかるので、傍聴などのようにリアルタイムで情報を得ることはできませんが、「過去にこれは、どのように決定したのかな？」ということなどを調べるには便利です。

閲覧は、議会事務局はもちろんですが、公民館や図書館など、どなたでもできます。また、インターネットでも閲覧できます。(七戸町のホームページから)

URL <http://www.town.shichinohe.lg.jp/gyosei/gikai/gikai/>

皆さんのスタイルに合った方法で、見て、聞いて、読んで、七戸町議会を少しでも身近なものに感じていただけたらうれしいです。



閲覧できる場所は
・中央公民館や中央図書館
・議会事務局

また、町のホームページでも、過去15年分の議事録が閲覧できるよ。



議会事務局
QRコード

町政に生がされているが! 一般質問、その後……



質問者 佐々木寿夫議員

シエアオフィスを作る考えはないか。また、サテライトオフィスを誘致する考えはないか。

答弁

シエアオフィスについては、地域おこし協力隊員が空き家を利用して設置したということ、物件の調査やニーズの把握など、活動中であり、サテライトオフィスについては、今年6月に「七戸町空き公共施設等利活用促進条例」を制定し、募集しています。なお、サテライトオフィスもいつときほど、拡大傾向ではなく、むしろ減少傾向に向かっているようで、やはり顔を合わせて仕事をすることが効率化につながるということもあるようです。

この辺のニーズをよく把握しながら検討を進めたいと思います。

進捗状況(企画調整課)

令和4年5月現在、地域おこし協力隊員1名が、大池地区の民間住宅を借用し、宿泊しながらの利用にも対応できる、「コワーキングスペース」の運営に向けた施設改装等を進めており、本年6月に供用を開始する予定となっております。コワーキングスペースは、シエアオフィスの機能に加え、利用者同士の交流等のコミュニケーション形成がしやすい空間となっており、ミーティングやワークショップといったイベントの開催にも適した施設であるため、本施設を活用した町内外の方の交流促進による活性化が期待

議員主導による政策論議の効果は!

一般質問は、議員主導による政策論議です。今回は、令和3年(12月)第4回定例会での一般質問において、「検討する」と答弁した事項についての進捗状況をお知らせします。

されます。

なお、空き公共施設の活用については、町の今後の活用方針を見据えながら、サテライトオフィスとしての利活用も含め、随時募集したいと思います。



6月にオープンしたコワーキングスペース(大池地区)

質問者 ニツ森英樹議員

世界文化遺産に登録決定したニツ森貝塚ですが、公園も整備され、ニツ森貝塚館も開館し、たくさんの方が来訪しています。これから冬になり、来訪者は減少すると思います。世界遺産ニツ森貝塚をもっと宣伝するため、冬にしかできないイベントを行う考えは。

答弁

イベントについては、大規模なものはまだ実施しておりません。来館者に再訪していただけるように、ニツ森貝塚館での体験講座の開催などに取り組んでいます。ニツ森貝塚館開館後、初めての冬ということで、来訪者がどれくらいになるのか気になるところですが、現時点では、冬限定のイベ

ントということではなく、どの時期にどのような規模で実施することがベストなのか検討します。

進捗状況

(世界遺産対策室) 冬にしかできないイベントを含め、検討中ではありますが、令和4年度は、ニツ森貝塚館を拠点として「館内ワークショップ」を月1回程度と、「ニツ森貝塚ふれあいまつり」を秋ごろに開催する予定となっております。



住みよいまちづくりのために

町政のここが聞きたい



一般質問

6月定例会では、5人の議員から37件の一般質問がおこなわれ、新型コロナウイルス感染症や定住対策などについて、活発な議論が展開されました。

「一般質問」は、行財政全般にわたる議員主導による政策論議であり、年4回の定例会で行われます。

質問する議員も受ける執行機関も、ともに十分な準備が必要であるため通告制※が採用されています。

議員が行財政全般にわたり、事務の執行状況及び将来の方針等について所信をただし、事実関係を明らかにすることにより、現行の政策の確認、変更、是正、あるいは新規の政策を採用させる目的と効果があります。

※通告制とは、発言等をする場合、あらかじめ議長に対し発言要旨などを記載した文書を提出することです。

ページ	質問者	主な質問項目
7	佐々木 寿夫 議員	<p>◎新型コロナウイルス感染症について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の感染者数は。 ・休校措置の影響や対策は。 ・ワクチンの3回目接種者数は。 ・これからの感染対策をどのように推進するか。 <p>◎野菜生産力向上対策事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業の取り組みの成果は上がってきているか。 ・今後の課題は。 ・七戸産野菜の販路拡大にどのように取り組むか。 ・野菜の安定的な供給にどう取り組むか。 <p>◎成年後見人制度利用支援事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の利用者と対象者数は。 ・成年後見人を養成、支援する研修等を実施する考えは。
8	岡村 茂雄 議員	<p>◎定住対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれる子供より転出超過数が多いが、若い世代の減少が加速しているのでは。 ・若い世代が流出する要因として、求職と求人のミスマッチなどがあるのでは。 ・地元産業の育成について、どのような対策を考えているか。 ・官民協働による総合戦略を構築する考えは。

ページ	質問者	主な質問項目
9	向中野 幸八 議員	<p>◎公共バス運行事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年から3年までの、コミュニティバス及びシャトルバスの利用者数は。 ・コミュニティバス及びシャトルバスの運行について、利用者に対し、細やかに配慮された停留所の設置をする考えは。 ・運行ダイヤに関し、利用者や地域住民から意見を聞くための懇談会が行われたことがあったか。また、アンケート等で意見を聞き、要望等の検討や対策を講じる考えは。 ・町民の足として、とても重要なバス運営事業であるが、年間の運行経費は。 ・バス運行事業の充実は、高齢者の免許返納につながり、安心して不自由なく生活でき、交通事故等の減少にもつながる。町独自の安心安全な環境に取り組む考えは。 ・利用者の利便性を図り、既存の運行业務を維持・管理しながら、一部のコースをテスト的に専門のノウハウを持った業者に委託する考えは。 ・事業継続には改善が必要であり、また運営経費がかかる。転換の検討時期だと思うが、どのような施策を講じる考えか。 <p>◎町営住宅の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月末現在、町で管理している住宅の軒数と入居数は。 ・町は災害、緊急時等に備え、利用する住居のみを管理し、ほかの住宅に関しては、不動産関係の業者を指定し、管理権限を代行させ、入居から転居までの業務を指定管理者制度とする考えは。
10	山本 泰二 議員	<p>◎町有施設の安全管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東八甲田家族旅行村、森林公園等、屋外の施設利用者はどのように把握しているか。 ・施設の安全上の問題点、危険箇所を把握しているか。 ・非常時における連絡、通報、避難手段は確立されているか。 ・施設利用者には、申し込みの上、規約を遵守させる必要があるが、その考えは。 <p>◎七戸町の関係人口について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係人口に関する管理指標は。 ・関係人口を増やすため、どのような取り組みを行っているか。 ・情報発信により、移住等で直接人口増につながった事例は。 ・バーチャル町民制度を導入する考えは。 <p>◎ゼロカーボンシティ宣言について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2050年を目標としているが、何をもって達成としているか、具体的な指標は。 ・目標達成に向けて実施する具体的な施策は。
11	市 清悦 議員	<p>◎新型コロナワクチン接種について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナワクチンの町民の接種状況は。 ・接種しない主な理由をどのように考えているか。 ・新型コロナワクチンに関し、注意事項も含めどのような情報提供が国からあったか。 <p>◎消費者政策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して情報収集をしている人とそうでない人との情報格差が大きい。町民を詐欺被害や健康被害から守るために、インターネットからも多角的に情報を入手できるように消費者政策を強化する考えは。

※一般質問は、制限時間50分、通告内容を1件ずつ発言して順番に質疑応答をしていく「一問一答方式」です。

文教厚生常任委員会 学校訪問

開催日 令和4年7月5日(火)
案件 学校訪問(七戸中学校・七戸小学校・城南小学校)

今年度は、七戸地区の小中学校の訪問でした。各校とも、教室や廊下が、児童生徒の絵や作品であふれていました。七戸小学校については、今年度、グラウンド改修が予定されており、その説明も受けました。各校長からは、学校の経営方針や特に力を入れている重点事項や目標についても確認できました。今後、当委員会では、学校生活における安全や学力向上等に取り組んでいきます。

文教厚生常任委員長 岡村 茂雄



城南小学校での授業見学

佐々木寿夫 議員



小中学校で学級閉鎖や休校したようだが 休校措置の影響や対策は

教育長

学習の遅れについては、平日の授業時間を増やし対応
今後、長期休業期間に出校日を設けるなどの対応も考
えられます

新型コロナウイルス 感染症について

議員
町の感染者数は。

町長

県の公表基準により公表されている、当町の5月18日から24日までの新規陽性者数は、1人から10人です。以前はクラスターの発生もあり、新規陽性者数が多く確認されましたが、現在は少ない状況で推移しています。

議員

小中学校で学級閉鎖や休校した話を聞くが、休校措置の影響や対策は。

教育長

これまでの休校措置や学

年閉鎖では、学習の遅れ、学校行事の中止や延期、保護者が仕事を休まなければならぬなどの影響が出ています。学習の遅れについては、休校や学年閉鎖期間の授業時間を確保するため、平日の授業時間を増やし対応していますが、今後

の措置を取った場合には、長期休業期間に出校日を設けるなどの対応も考えられます。

議員
町のフクチンの3回目接種者は。

町長

5月23日現在、3回目の接種者は、高齢者5494人で84・76%、一般は4985人で58・02%、全体で1万4799人で69・52%という状況になっています。

議員

これからの感染対策をどのように推進するか。

町長

今後も引き続き、新規感染者発生状況の把握に努めるとともに、町内の公共的施設や観光施設の利用、イ

ベントやスポーツ大会等の開催にあつては、青森県危機対策本部のガイドラインを基本とし、徹底した感染対策を的確、かつ迅速に実施していきたいと考えています。

議員
野菜生産力向上
対策事業について

町長

町では数年前から野菜生産力対策向上5カ年計画というものを作って取り組んでいるが、取り組みの効果は。

議員

平成28年3月に七戸町野菜生産力向上5カ年計画を策定し、令和2年までに延べ177経営体に補助金を交付。また、令和3年3月

町長

には新たに、七戸町農業振興5カ年計画を策定し、種子や資材、農業用機械等の購入への補助金を拡大し、事業継続を行っています。町内における農業者の減少が著しい中で、野菜の作付面積が微減で推移しているということから、本事業の取り組みは、十分に成果が出ているものと思っています。

議員
今後の課題は。

町長

平成27年と比べ、農業経営体数は20%減、作付面積は5%減となっています。これは、担い手農家の労働力不足と高齢化によるものと考えられ、深刻な課題であります。また、所得安定も課題の一つで、稲作中心の作付から高収益野菜を交えた複合経営の転換も、引き続き進めていきたいと考えています。

議員

七戸産野菜の販路拡大に
どう取り組むか。

町長

全国規模で展開している両農協を主軸に、今後も販売促進をお願いしたいと考えています。

議員

野菜の安定的な供給に
どう取り組むか。

町長

関係機関・団体との連携を密にしなが、生産面における支援を継続していきます。

成年後見人制度 利用支援事業について

議員

町の利用者と対象者数は。

町長

成年後見人制度対象者ですが、令和4年4月1日現在、1480人、内訳は、認知症高齢者1201人、愛護手帳所持者141人、精神保健福祉手帳所持者が138人となっています。また利用者は、令和3年8月31日現在、家庭裁判所の報告では45人となっています。

議員

成年後見人を養成、支援する研修等を実施する考えは。

町長

町では、平成29年、30年の2カ年にわたり、市民後見人養成研修を開催し、研修を修了した5名が市民後見人候補者として名簿登録されています。今後も名簿登録されている市民後見人候補者への支援を行っていきます。

若い世代の減少が加速 官民協働体制を構築し、定住対策を

岡村 茂雄 議員



町長

知識を吸収した若い世代の、Uターン後の職場、雇用の創出は、喫緊の課題



亡くなる人の増加と、転入者より転出者が多い転出超過という形で人口減少しているが、若い世代の転出者が特に多い。これは若い世代が希望する仕事が少ないことや給料が安いことなどが影響しているのではないかと。人口減少や産業振興は、行政だけでは解決できない問題です。生産年齢人口の減少による人材確保は、地域間の競争でますます厳しくなります。そのためには、定住対策を最優先するべきだと思います。

定住対策について

議員

生まれる子供より、転出超過数が多いが、若い世代の減少が加速しているのでは。

町長

令和2年の国勢調査による当町の人口減少率は、平成27年と比較して7.3%減となっております。また、全人口の転出者113.6人に占める、15歳から29歳までの割合が45%で、若い世代が転出している比率が、非常に高い状況にあります。全国的な課題である、婚姻年齢の高齢化による、出生者数の減少に加え、この年代は、進学や就職を迎える時期であり、進学に伴う転出は、避けられないことでもあります。問題は卒業後の、Uターン率が低いという点と、就業を目的とした転出もあるということです。非常に憂慮しています。町では、町外で様々な知識を吸収した若い世代が、当町にUターンして働くための仕事、雇用の創出は、喫緊の課題であると考えています。

議員

若い世代が流出する要因として、求職と求人とのミスマッチが影響しているのでは。

町長

青森労働局が公表した、令和4年3月、新規高等学校卒業予定者職業紹介状況によると、県内求人数に対する内定率は、全職業の合計で30%であるものの、当町を含む、野辺地ハローワーク管内では、今春、高校を卒業した就職希望者、全員の就職が内定していることから、新規高卒者は、求人数が求職者数を大きく上回っています。

議員

地元産業の育成について、どのような対策を考えているか。

町長

農業への支援では、遊休農地の集約を進めながら、経営規模に応じて各農家の設備や資材、種子の購入に係る補助を実施しており、引き続き安定した経営を図れるよう支援を継続しています。

議員

定住対策を総合戦略の重要課題として位置づけ、そして、関係機関をはじめ、農業や商工業、専門分野に携わる人などによる、官民の協働体制を構築し、実践的な対策を検討したほうが、定住対策の効果が上がると考えるが。

町長

町では、総合戦略の策定及び効果検証する機関として総合戦略審議会を設置しています。この審議会は、産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、メディアなどの町内外の機関で組織しています。総合戦略策定後も年1回会議を開催し、地方創生に関する事業の推進と効果検証を行っています。この審議会の委員は、それぞれの専門分野に精通している方々です。今後により具体的な提案をいただきながら、官民協働による地方創生、最終的には、定住促進といったものにつなげるよう推進していきたいと考えています。



向中野幸八 議員



コミュニティバスやシャトルバスの運行について、転換の検討時期では

町長

利用者数が大幅に減少している状況を見ると、効率的な運営をしていかなければならないと考える
当然、事業内容も見直す時期であるとも考えている

公共バス 運行事業について

議員
令和元年から3年までの、コミュニティバス及びシャトルバスの利用者数は、

町長
コミュニティバスとシャトルバスを合わせた利用者数は、令和元年度3万9534人、令和2年度3万489人、令和3年度2万5989人となっています。

議員
コミュニティバス及びシャトルバスは、町民のために運行されている。しかし、利用者に対して細やかに配慮された停留所の設置をする考えは。

町長

停留所の設置については、町民アンケートや利用者から直接要望を聞き取りするなど、利用者の利便性を配慮して設置しています。

議員

運行ダイヤに関して、利用者や地域住民から意見を聞くための懇談会が行われたことがあったか。また、アンケート等にて意見を聞き、要望等の検討や対策を講じる考えは。

町長

現在の運行は、町民アンケートや中学、高校からのアンケート、老人福祉センターとゆうずらんの利用者からの聞き取りなどを基に改正したものです。また、不特定多数の町民を募集しての懇談会は開催していません。

議員

町民の足として、とても重要なバス運行事業であるが、年間の運営経費は。

町長

令和3年度実績で、運営業務委託料のほかに、バス7台の車検費用、修繕料、

総額3625万8038円

となっております。このほかに車両更新として、令和元年度に小型バスを713万9000円、令和2年度に中型バスを2198万円で購入しています。今後の車両更新は、令和7年度を計画しています。

議員

バス運行事業の充実は、高齢者の免許返納にもつながり、安心して不自由なく生活ができ、交通事故等の減少にもつながると思うが、町独自の安全・安心な環境に取り組む考えは。

町長

町のコミュニティバスは、自動車を運転しない高齢者にとっては、生活になくはならないものであると同時に、不便なく安心して利用できるものでなくてはならないと思っています。その観点から、高齢者の利用状況をよく観察したうえで、要望等に十分配慮し、停留所の設置や運行ダイヤなどの利用環境を整備していきたいと考えています。

議員

利用者の利便性を図り、

町営住宅の 管理について

議員
令和4年4月末現在、町で管理している住宅の軒数と入居数は。

町長

コミュニティバスは、病院、買物、風呂の時間に十分配慮して決定し、利便性の向上に努めて運行しているといったことで、目的別にコースを設定して業者に委託する運行方法は考えていません。

議員

事業の継続には改善が必要であり、また運営経費がかかりすぎます。転換の検討時期だと思いが、どのような施策を講じる考えか。

町長

現状の利用者数が大幅に減少している状況を見ると、効率的な運営をしていかなければならないと考えています。当然、事業内容も見直す時期であるとも考えています。今後、効率的な運営を目的として、路線数や車両の大きさなどを検証し、改善していきたいと思えます。

町営住宅の 管理について

議員
令和4年4月末現在、町で管理している住宅の軒数と入居数は。

町長

令和4年4月末現在、町営住宅は17団地、管理戸数258戸、入居戸数223戸、空き戸数35戸となっています。

議員

町は、災害や緊急時等に備え、利用する住居のみを管理し、ほかの住宅に関しては、不動産関係の業者を指定し、管理権限を代行させ、入居から転居までの業務を指定管理者制度とする考えは。

町長

県内では、管理戸数が2000戸を超える県営住宅、青森市、弘前市、八戸市の市営住宅が指定管理を行っています。現在のところ、当町職員で管理及び対応が可能なため、今のところ指定管理については考えていません。

山本 泰二 議員



2050年目標のゼロカーボン 何をもって目標達成とするか

町長

平成30年の温室効果ガス総排出量が
16万3,600トンと算出されている
これを実質ゼロにすることを目標とする

町有施設の 安全管理について

議員 家族旅行村及び森林公園は、町外からも利用者がやってくる。近年のアウトドアブームで、今後も来訪者が増える可能性がります。現在、利用者について、どのように把握しているか。

町長 家族旅行村は、キャンプ場など、施設利用料が発生する場合や予約が必要な場合については、把握しています。入場・入村フリーの花見やピクニックなどの日帰り客については、把握していません。森林公園についても同様です。

議員 火災、水の事故、斜面の崩落、立木の落木、建物の老朽化などによる倒壊、野生生物の出没など、安全上の問題点、危険個所の把握それに対する注意喚起は、

町長 悪天候に伴う警報が発令された場合、回復後に施設を巡回しています。また、シーズン初めや環境整備の際、危険個所等の確認や、奥まった遊歩道は、熊の爪痕がないかなども確認はしております。

議員 確認や注意喚起を行っても、災害は発生する可能性があります。連絡、通報、避難等の手順や周知方法は整っているか。

町長 家族旅行村は、非常時の連絡、通報、避難については、整備されています。ただし、説明や表示など、一目で分かるような状況になり部分もありましたので、改善の指示をしました。森林公園は、現場に管理人がいないため、連絡先を看板で表示しています。

議員 今後の利用者の増加も見据えると、利用者に対して安全上の観点から、申し込みをしたうえで、利用規約を遵守してもらうという制約を得る必要があるのではないか。

町長 家族旅行村では、受付で注意書きを配布、観光情報サイトにも掲載します。森林公園では、立入禁止区域のロープ張りなど、適切に対処したいと思います。それから、掲示物や看板など、QRコードを使うことも方法も一つであると思います。

議員 関係人口または交流人口を増やすとしているが、これに関する何らかの管理指標はあるか。

町長 令和2年3月に策定した「まち・ひと・しごと創生第2期七戸町総合戦略」の新たな視点として、関係人口の創出、拡大を目指すこと

ころですが、直接的に関係人口を管理する指標は設定していません。

議員 現在実施されている、関係人口を増やすための取り組みは。

町長 残念ながらここ2年、新型コロナの影響によって、積極的に町外から人を呼び込むイベントは実施できていません。今後は、コロナ禍に対応した新しい生活様式のもと、イベントや事業を開催しながら、町の資産を活用した関係人口の創出、拡大を図っていきます。

議員 関係人口は、直接の住民増にはなりませんが、移住のきっかけになる可能性があるが、そのような事例があったか。

町長 具体的に、いくらというのは把握しておりませんが、転入・転出者を対象にアンケート調査した際、「町ウェブサイトを広報誌で支援事業を知った」と答えた方が13%ありました。

議員 バーチャル町民制度を導入する考えは。

町長 先進的な取り組みを参考としながら研究します。

ゼロカーボンシティ 宣言について

議員 ゼロカーボン宣言の目標が2050年、何をもって目標達成したとするか。

町長 平成30年の産業、家庭、自動車などから排出される温室効果ガス総排出量が16万3600トンと算出されており、これを実質ゼロにすることを目標としています。

議員 その目標達成のために実施する具体的な施策は。

町長 今年度策定する「七戸町ゼロカーボン戦略」の中で、施策を掲げることになっています。

呷 清悦 議員

3回目のワクチン接種の効果について 国からの説明や情報提供は



町長

16歳と17歳を対象とした研究結果において
未接種者と比べ、新型コロナウイルスのような
症状による救急外来の受診が81%減少

新型コロナウイルス 接種について

議員
当町の18歳以上と12歳から17歳まで、5歳から11歳までのワクチン接種について、接種回数ごとの人口比の割合は。

町長
5月23日現在の人口割合、18歳以上の1回目の接種率89・4%、2回目89・1%、3回目75・4%。12歳から17歳までは、1回目89・8%、2回目89・1%、3回目19・2%。5歳から11歳までは、1回目88・0%、2回目2・9%です。

議員
どのような理由で、接種をしなかったと考えるか。

町長

今回の予防接種は、努力義務と呼ばれているもので、強制ではなく、最終的には本人が納得したうえで接種を判断することになります。町では、接種をしていない方に対し、聞き取りは行っていませんので、その理由は把握していません。

議員
新型コロナウイルスに関する注意事項も含め、どのような情報提供が国からあったか。
②社の新型コロナウイルスに関する情報提供がなされたか。
②妊婦がワクチン接種する場合、リスクに関する説明や情報提供が、国からあったか。

町長

①町ではワクチン接種対象者に、接種券に新型コロナウイルスワクチン接種のお知らせリーフレットを同封し、2社のワクチンについて、副

反応の安全性、発症予防効果の情報を提供しています。
②国からは特にありませんでした。

議員

ワクチン接種後に死亡した場合、国が補償金を支払う制度について、どのような情報提供がなされたか。また、ワクチン接種が原因で亡くなったと思われる場合、その遺族はどこに相談、申請すればよいか。

町長

ワクチン接種のお知らせリーフレットにおいて、国の救済制度である、予防接種健康被害救済制度が設けられていることの情報を提供しています。また、相談や申請に必要な手続きなどは、住民票のある市町村に相談することになっています。

議員

3回目のワクチン接種の効果について、国からはどのような説明、情報提供があったか。

町長

国からは、16歳と17歳を

対象とした研究結果において、オミクロン株流行期に2回目接種後は、未接種の方と比べ、新型コロナウイルス感染症のような症状による救急外来の受診を34%減少、3回目接種後は、同様の救急外来の受診を81%減少させる効果があったという情報がありました。

消費者政策について

議員

インターネットを活用して、情報収集している人とならない人との情報格差が大きくなっている。町民を詐欺被害や健康被害から守るために、インターネットからも多角的に情報を入力できるように消費者政策を強化する考えについて。
○高齢者世帯が詐欺に狙われる事件が多く聞かれる町では、この問題に対してどのような対策を行っているか。

町長

町では、七戸町相談窓口紹介ネットワークを設置し、民生・児童委員、保健協力

員、地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政相談員などと連携し、高齢者の相談体制を整えています。昨年度は、ネットワーク構成員が注意喚起を強化、今後も継続します。また、新たに「テレビのdボタン広報」に掲載するほか、防災無線や公式ラインで注意喚起するなど、未然防止に努めます。

議員

○町の将来を考え、的確な判断をしていくうえで、情報収集と分析は重要だと考えるが、それらを強化していく考えは。

町長

町では、総務省が推進する「自治体デジタル・トランスフォーメーション」の目指す、役場の変革のための前段として、行政手続きのオンライン化を進めています。このことにより、町民の皆様にもICT技術の習得サポート等が必要になると考え、スマホの使い方相談を実施しました。今後もICT技術習得等、情報格差是正に努めていきます。

委員会の動き

◎総務企画常任委員会

開催日 令和4年5月16日
案件 ①令和4年度各課事務事業計画
 ②6月定例会の各課懸案事項
内容 ①・②事務事業計画及び懸案事項については、関係課長より説明を受け協議した。

◎建設産業常任委員会

開催日 令和4年5月17日
案件 ①令和4年度各課事務事業計画
 ②6月定例会の各課懸案事項
 ③滞納状況（建設課・上下水道課）
内容 ①・②事務事業計画及び懸案事項については、関係課長より説明を受け協議した。
 ③滞納状況については、建設課長及び上下水道課長より説明を受け協議した。

◎文教厚生常任委員会

開催日 令和4年5月18日
案件 ①令和4年度各課事務事業計画
 ②6月定例会の各課懸案事項
内容 ①・②事務事業計画及び懸案事項については、関係課長より説明を受け協議した。
開催日 令和4年7月5日
案件 ①学校訪問（七戸中学校・七戸小学校・城

内容 南小学校）
 6頁参照

◎議会運営委員会

開催日 令和4年5月20日
案件 ①6月定例会の会期日程等について
内容 提出議案について、総務課長及び財政課長より提出議案等の説明を受け審査した。
 ・一般質問通告書について、5名の質問内容を審議した。
 ・陳情等の取り扱いについて、陳情3件を資料配布することにした。
 ・会期について、日程を審議した。
 ・議員派遣について、県町村議会議長会主催の議員研修会に派遣することにした。

開催日 令和4年6月1日
案件 ①一般質問の件について

開催日 令和4年6月7日
案件 ①議案の追加について
 ・工事請負契約の締結について（2件）
 ・令和3年度一般会計補正予算（第3号）
内容 ①総務課長及び財政課長より追加議案の説明を受け、追加日程で審議することにした。

◎議会改革特別委員会

開催日 令和4年6月1日
案件 ①議員定数について
内容 七戸町の現状に見合った議員定数について調査検討したが結論に達せず、継続審査とした。

町村議会広報研修会

期日 5月25日(水) 青森県労働福祉会館
演題 「住民に読まれ議会活動が伝わる
 ～議会広報の基本と編集～」
講師 議会広報サポーター 芳野 政明 氏

講師の芳野氏は、議会広報研修会の講師活動や全国町村議会広報表彰審査委員を務めており、講演では「かたい、わかりづらい、読む気がしない、と言われ続けてきた議会だよりのイメージをいかに払拭するか。読みたくなる、わかりやすい、身近に役立つ紙面づくりをおして、議会の存在感を高めることに貢献しなければならない」と。

また、「議会だよりが目に見えて変わると『議会が変わった』サイン」と力強く話されていました。



編集後記

自分が前向きにならずに、ほかの人を明るくすることはできません。議会だよりで、少しでも明るい話題が届けられるよう努力していきたいと思えます。（山本）

議会広報編集特別委員会

委員長 山本 泰二
 副委員長 佐々木 寿夫
 委員 小坂 義貞
 二ツ森 英樹
 向中野 幸八
 中野 正章

このところ深く考えさせられる事態が多発しています。戦争やパンデミック、異常気象に食糧危機やエネルギー危機。当たり前だと考えてきたことが実はそうではなかったということに気が付かされ続けています。こういったことを解決するのは容易ではありません。しかし、こういう時こそ悲観的にならずに前向きに生きていきたいと思えます。